



(撮影：三嶋一路、写真提供：山口情報芸術センター [YCAM])

これは、近く鑑賞者にも〈死〉が訪れることを示している。
 こうした展示構成からは、危機として迫る太平洋戦争-〈死〉に対して、アニメーションと〈ささやき声〉によって「京都学派」が発信した思想-テキストを「再演」する作品として、『ヴォイス・オブ・ヴォイド——虚無の声』を捉えることができる。その意味で本作は、吉田傑俊が

「『京都学派』の哲学が決して単一体ではなく、戦争への関与において決定的な分裂を示した」(『『京都学派』の哲学』大月書店、2011)と指摘する特徴をよく体現していた。

ただし、そうした複数性は、その実、ある一点を志向していた——鑑賞者として〈ささやき声〉を聞き-読むことを通じて「京都学派」の思想-テキストを読み、VRを体験するならば、この戦争に関わっては、料亭／刑務所／前線のどこにいても〈死〉と無縁ではないことがわかる。それでいて、〈死〉への関わり方には多様な思索、複数の立場・選択肢があり得たことも示される。こうした本作に重ねて、太平洋戦争末期のフィリピンで九死に一生を得た大岡昇平による「未来には死があるばかりであるが、我々がそれについて表象し得るものは完全なる虚無」(『俘虜記』)という一節を想起するならば、「京都学派」(の思想-テキスト)を「再演」する意味が、太平洋戦争とその〈死〉の問い直しにあったことは明らかである。

2021年度 アジア研究センター活動報告

2021年4月～2021年9月

共同研究グループ主催による公開講演会

- 研究グループ：「植民地国家と近代性：
アジア諸国を中心とする比較研究」
日 時：2021年7月17日(土)
テーマ：「学術出版のゆくえ—人文・社会科学を中心に」
講演者：勝 康裕氏(編集者・元法政大学出版局)
- 研究グループ：「アジアの社会遺産と地域再生手法」
日 時：2021年7月20日(火)
テーマ：「ベトナム・ハノイ 変化する都市の文化遺産」
講演者：柏原 沙織氏(東京大学大学院新領域創成科学研究科
自然環境学専攻 特任助教)
- 日 時：2021年8月25日(水)
テーマ：「ベトナム・サイゴンの建築と都市の文化」
講演者：李 暎一氏(一社)アジア建築集合体 会長)

共同研究グループによる出張

- 研究グループ：「アジア圏における文化の
生成・受容・変容」
《国内》
出張者：松本 和也(所員 本学国際日本学部教授)
出張先：山口情報芸術センター(山口県)
日 程：2021年6月27日(日)～6月28日(月)
目 的：近代文化関連資料の閲覧・調査
- 出張者：松本 和也(所員 本学国際日本学部教授)
出張先：パルコ de 美術館、碌山美術館(長野県)
日 程：2021年9月7日(火)～9月8日(水)
目 的：近代文化関連資料の閲覧・調査
- 研究グループ：「アジア地域の災害軽減化と防災・
減災ネットワーク構築に関する研究」
《国内》
出張者：荏本 孝久(所員 本学工学部教授)
佐藤 孝治(客員研究員 本学名誉教授)
出張先：宮城県、岩手県
日 程：2021年5月28日(金)～5月30日(日)
目 的：被災地の復興状況調査

【お詫びと訂正】7月発行の「神奈川大学アジア研究センター CAS NewsLetter No.15」10頁において、出張者の肩書に誤りがありましたので下記のとおり訂正いたします。誤記によりご迷惑をおかけした佐藤孝治先生及び関係の皆様へ深くお詫び申し上げます。

(誤) 佐藤 孝治(客員研究員 本学経済学部非常勤講師) (正) 佐藤 孝治(客員研究員 本学名誉教授)